

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

論述・計算が中心で、空欄補充・記述・記号選択などが含まれる。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

論述問題が減少し、計算問題は具体的な数値を求める問題が増加した。

その他トピックス

図表の数が減少したため、ページ数が減少した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記号選択 論述	地質・地史, 岩石 (地質図, 火成 岩と堆積岩, 地球の歴史)	地学 基礎 + 地学	問1 地質図の読み取る問題で、平坦な地形に走向・傾斜の記号が示されており、やや易しい。 問2 与えられた粒径から砕屑物の名称を問う問題で、易しい。 問3 深成岩のスケッチを選択する問題で、易しい。 問4 与えられた年代から全球凍結を想定して、ドロップストーンに結びつける論述問題で、難しい。 問5 オゾン層の形成と生物の進化を関連づける論述問題で、よく問われる事項であり、やや易しい。	やや易
II	記号選択 記述 計算	固体地球, 地史 (地球表層の構造, 日本列島の地史, アイススタシー)	地学 基礎 + 地学	問1 アイススタシーに関する知識問題で、標準的である。 問2 地殻の構造に関する知識問題で、易しい。 問3 日本列島の第四紀の地殻変動に関する問題で、具体的な地域名を答えることから、やや難しい。 問4 アイススタシーに関する計算問題であるが、地殻の厚さの変化を問う問題で、図を用いずに説明することが難しい。	やや難
III	記号選択 論述	大気と海洋 (大気の大循環, 雲の形成過程, エルニーニョ現象)	地学 基礎 + 地学	問1 大気の大循環における熱の移動に関する問題であるが、あまり問われたことがないタイプの問題でやや難しい。 問2 貿易風の風向に関して、与えられた語句を使用して論述する、標準的な問題である。 問3 雲の形成過程を論述問題で、与えられた語句をすべて使用して文章を完成させるため、やや難しい。 問4 エルニーニョ現象に関する問題で、基本的な知識で解けるため、易しい。	標準

IV	記述 計算 論述	宇宙 (太陽系の惑 星)	地学 基礎 + 地学	問1 (1) 惑星の密度を求める計算問題で、標準的である。 (2) 木星型惑星に関する知識問題で、易しい。 (3) 地球型惑星と木星型惑星の内部構造の違いを与えられた語句を全て使用して論述する問題で、標準的である。 問2 液体の水の存在に関する知識問題で、易しい。 問3 (1) 地球と金星が受け取る太陽放射エネルギーを求める計算問題で、アルベド、エネルギーと距離の関係などを適切に運用することが必要になり、やや難しい。 (2) 金星の表面温度に関する論述問題で、易しい。	標準
----	----------------	--------------------	---------------------	---	----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

記述対策としては、教科書に掲載されている重要な用語を確実に覚えることが必要である。論述対策としては、学習する分野を象徴するような地学現象に関して、メカニズムをしっかりと理解し、少ない字数で素早く要点を的確にまとめることができるように、練習することが大切である。計算問題の対策としては、公式を覚えてそれを運用するだけでなく、過去問などからさまざまな分野の計算問題を探して、問題演習をしっかりとしておくことが重要である。また、教科書などに掲載されている図や、実習・観察のページにあるグラフなどを実際に自分で描いて、結果や考察をまとめる練習をしよう。

地学は問題集・参考書がほとんどないため、過去の共通テストや二次試験などに加え、オープン模試や全統記述模試なども活用して学習していこう。